

さいとう淳一郎の日々の街頭演説を、紙上でお伝えしています。

次の世代のために…38歳 覚悟の決断
栃木県議会議員

さいとう淳一郎街頭演説レター

第 2 号 (再版)
発行日 平成 23 年 6 月 1 日
発行者 栃木県議会議員
さいとう淳一郎
〒329-2136 矢板市東町 3006-3

「みんなの党」の政策テーマを栃木県政に生かします！

『さいとう淳一郎』は昭和 47 年生まれの 38 歳です。バブルがはじけた直後の平成 3 年に高校を卒業しましたが、その後 20 年間、日本は政治も経済も停滞しています。

そうした停滞を打ち破るために「みんなの党」は立ち上がりました。『さいとう淳一郎』も地元栃木出身である渡辺喜美代表とともに、ふるさと矢板から改革の先頭に立っていきます。

「みんなの党」の政策テーマは、「脱官僚」「地域主権」「生活重視」の 3 つです。

1 番目のテーマは「脱官僚」です。現在の政治や行政に対する皆さんの御要望は、多様化、複雑化しています。しかしこうした画一的な官僚統制では、そうした多様化、複雑化する御要望に的確に対応していくことができなくなりました。

私も昨年 10 月まで栃木県庁に勤めていました。土木部から始まって、産業労働観光部、農政部、そして保健福祉部と幾つもの職場を経験してきましたが、その都度感じてきたことがこの官僚統制の“壁”でした。

ですからこれからは、まさに「脱・官僚」、栃木県においては「脱・県庁」です。そして県民の皆さんのお知恵をお借りしながら、そして民間企業のお力もお借りしながら「小さな県庁でも大きなサービス」を実現していくべきです。

2 番目のテーマは「地域主権」です。「みんなの党」は国から地域に、権限、財源、そして人間の 3 つを移譲する「地域主権型道州制」を提案しています。「地域のことは地域で決める」「自分たちの頭で考え、自分たちで行動する」という仕組みづくりや姿勢こそが、ふるさと矢板に新しい息吹を吹き込む第一歩になります。

しかし「地域主権」には責任が伴います。バラマキになってしまっただけでは決していきません。『さいとう淳一郎』はそうした責任を十分にわきまえながら、責任のある発言と責任のある行動をもとに、栃木県政で働かせていただきたいと考えています。

3 番目のテーマは「生活重視」です。「みんなの党」は「小さな政府」「小さな県庁」を提案していますが、小泉さんがやった改革と決定的に違っている点は、「誰でも安心、いつでも安心」のセーフティーネット（安全網）を分かりやすく用意していることです。

日本は今、少子高齢化と人口減少社会という、今まで経験したことのない大きな転換期を迎えています。そうした中でお子さんや高齢者といった「生活者」の視点が一層重要になっています。

『さいとう淳一郎』も 13 年半の県庁職員としての経験と知識を生かしながら、医療・介護、福祉、さらには教育といった分野で、着実な取組を積み重ねていきたいと考えています。